



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2021年1月10日(日) 9:30~12:00(曇り)

参加者 一般:1名

指導員:2名

## テーマ 「生きものの冬越し」

出かける時には道路上に薄っすらと雪が積もり、まだチラチラと舞っていました。念のためタイヤチェーンを積み、交通量の多い国道155号、22号を通過して138タワーパークに向かいますが、この雪では車や自転車で参加する人は来られないだろうと思いました。案の定、駐車場に車は少なく閑散としていました。ここで観察会を始めて6年目ですが、雪の積もっている状態で行うのは初めてです。

駐車場に植えられたクロガネモチとクスノキの間をツグミやヒヨドリあわせて30羽程が行ったり来たりして、実をついばんでしました。クスノキの実ほとんど食べつくされた感じでしたが、クロガネモチにはまだ赤い実が残っています。それでも、例年よりは少ないようです。昨年3月にレンジャクの群が飛来した時にはもっと多く実が残っていました。

この辺りでは雪が積ると普段とは違った鳥が見られることもよくあるので、参加者3名で期待して回りました。オオブタクサやクスが繁っていた川原の草原ではシジュウカラの群が動き回っており、見ていると近くにベニマシコのみと♀が姿を見せました。途中で出会った人からアトリの群、ルリビタキ、トラツグミが見られたと聞き、そちらに向かうと、実が残ったアキノシの枝に数羽のアトリの姿がありました。林内の道路脇にはルリビタキが現れ、大野極楽寺公園の林ではトラツグミをじっくり確認することができました。

鳥以外では、ヨコツナサシガメの幼虫がエノキの幹のくぼみに集っていました。また、ソシンロウバイの花に雪が積もり、いかにも冬といった感じでしたが、ミヤマウグイスカグラやボケが咲き始め、春の近さを告げていました。

観察会終了後、みんなで5km程下流の木曽川橋近くのコハクチョウ飛来地に行ってみました。コハクチョウは左岸近くに37羽が見られましたが、見渡しても木曽川にはキンクロハジロ3羽以外にカモの姿が見られませんでした。今シーズンはカモの飛来が少ないことが気になります。(報告:齋竹)

### <その他観察できたもの>

鳥:ムクドリ、シロハラ、コゲラ、モズ、カワラヒワ、シメ、アオジ、ホオジロ、キジバト、スズメ、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ダイサギ、ウグイス(声)



(いつものコースには雪化粧)



久しぶりのトラツグミ



雪の中のソシンロウバイ



早くも咲き始めたボケ



木曽川のコハクチョウの群